
吸血鬼になろう！

マッシュ北村

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

吸血鬼になろう！

【Nコード】

N50730

【作者名】

マッシュ北村

【あらすじ】

天使に吸血鬼にされた青年がコンティニュー無限で死にまくるブラックコメディ…コメディ？

一話 吸血鬼になりました

本日は『吸血鬼になろう』をご利用頂き、誠にありがとうございます。

「え、いきなり何これ？しかも、自分が文字？全く意味がわからないんですけど」

貴方のような底辺を這いずりまわる蛆虫が、わたくしを見ますと発狂いたしますので、テキストデータのみにて、お送りいたします。

「えー…本気で意味わかりません。私、いつの間にか邪神の生け贄にでもされたんでしょうか？」

わたくし、『吸血鬼になろう』の案内役を勤めさせて頂く、天使でございます。

「……天使って見たら発狂する物なんですか」

貴方のように神聖さの欠片も無い存在では、わたくし共を見ると浄化され、脳が焼き切れてしまいます。

「いや、私は確かに平凡な一般男子ですけど、そこまで言われる程じゃないと思います」

そこを説明するついでに『吸血鬼になろう』の企画説明を致しましょう。

まず我らが神がこう仰られました。

【暇潰しに下界調べてたら、神聖さの欠片も無い天然の吸血鬼みたいな奴見つけた（笑）何か面白そうだし、吸血鬼にしようぜ（爆）】

「（爆）とか（笑）とかちょいちょいム力つきますね、神様」

わたくしも苦勞しております。

それはともかく貴方のために我らが神は試練を与える事に致しました。

貴方視点の現代日本で吸血鬼になって頂きます。

神の愛に感謝してくださいませ。

「……ツツコミ所しか見つからないんですけど、質問いいですか？」

許可します。

「吸血鬼って現代日本にいるんですか？」

いる訳ないじゃないですか。ファンタジーじゃないんですから。

「そのファンタジーな存在になれと言われている相手に言う事では無いですよね」

質問はもうありませんね。

それでは良き吸血鬼ライフを。

「え、そんな訳な」

1 day 4 / 21 06:30

……何かおかしな夢を見ました。
吸血鬼になれ、とかいきなり言われて天使と名乗るテキストデータに……大学に入学したばかりだと言うのに、再びあの黒歴史時代が蘇ろうというのでしょうか。

「静まれ、私の邪気眼……！」

口に出すとあの頃の傷口が改めて抉られますね……！
私はもうあの頃とは違はずです。
この四畳半のアパート。一国一城の主となった私は厨二病を患っている場合では無いのです。
さあ、一日は始まったばかり。
今日も一日、頑張りましょう。

そう気合いを入れながら、私は閉め切っていたカーテンを開け

おかえりなさいませ。

「……………」

おや、余りの痛みに精神が焼き切れたようですね。仕方ありません。
！

「痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い……」
「？」

おかえりなさいませ。

「ただいま帰りました……って何なんですか、あれは！？」

吸血鬼が太陽の光に当たったら、灰になるというのは古今東西変わらぬ話だと思いますが。

「いや、現実だと思うはず無いじゃないですか……」

これも神の試練です。

一般的にイメージされる吸血鬼の弱点は全てもあると思ってください。

「え、じゃあお米が落ちてたら全て数えなければいけないんですか？」

なかなか一般的とは言えないマニアックな発言ですが、お望みとあらばわたくしの権限で追加致しますでしょうか？

「いえ、結構です……え、じゃあ私は何が出来るんでしょう。蝙蝠や霧になれたりするんですか？」

それについては神様よりお言葉を頂いております。

【飽きるまで、コンティニュー無限にしてやる代わりにレベルが上がるらないと何も出来ない仕様にしておいた】

「ゆとり世代ですか！？ゲーム脳ですか！？」

.....

「何で無言なんですか！？」

それでは良き吸血鬼ライフを。

「責任者を呼べ！」

1 d a y

4 / 2 1

2 0 : 0 0

リアリテイのやたらある夢……いや、太陽に焼かれるあの痛みが夢や厨二病の妄想のほすはありません。

アルミホイルを噛んでしまった感覚を数万倍にしたような……まあこれは一度、焼き殺されてみなければわからない感覚でしょうね。理解して共感してくれる人は全て死んでいます。とにかく二度とあの死に方だけはごめんです。

時間を確認すれば、日はとくに落ちたはずの夜の八時。

……だとしても、また焼かれるのはごめんです。

現実逃避かもしれませんが、家で大人しくしていきましょう。

幸い明日までくらの食料はあります。

明日まで考えれば、何かいいアイディアが浮かぶかもしれません！

そうと決めれば、まずはお腹が空いた事ですし、腹捻えにカップラーメンでも食べましょう。

お湯を沸かし、三分待つて頂きま……ほかほかのラーメンを口に運ぼうとしても、口に入れたくありません。

例えるなら、下水にいた生きたネズミを口に入れるような酷い抵抗感があります。

まさか……血を飲まねばいけないんですか？

吸血鬼として一番、有名な特性。

『吸血する鬼』

まさかまさかまさか。

今まで私は変わっているとは言われて来ましたが、他人の血を飲みたいと思った事なんて一度もありませんよ。

当たり前じゃないですか、人の血ですよ。

ブラッドオレنجジなら好きですけど、他人の血なんて……飲みたくて仕方ないです。

こう、何て言うんですかね？

ダイエットしている女の子がケーキの事を考えていたら、凄くケーキが食べたくなったみたいな感じでしょうか。

「人の血なんて飲みたくないです」

そう、口に出すと自分でそれが嘘だとはつきりわかります。

「人の血が飲みたいです」

うん、しつくり来ます。

私は人の血が飲みたいです。

そんな事を考えていたら、いつの間にか、暗い夜道を歩いていまし

た。

携帯で時間を確認すれば、夜の九時。

安さの代わりに多大な不便さ。私の住むアパートの周りは日が落ちるとあつという間に人影が無くなります。

逆に無い方がすつきりするくらいの街灯は本当に住宅街かと思ってしまうですね。

ええ、何故、ここに私がいるのか。薄々はわかっています。

「こんばんは」

「あ、こんばんは。どうしたんですか、こんな場所で」

いつも顔を合わせれば、にこやかに挨拶をしてくれる名前を知らない女子大生の彼女。

今日も暗い夜道だと言うのに、彼女の笑顔は輝いて見えます。

「はい、ちょっと用事がありました」

ゆつくりと、彼女に警戒されないように一歩ずつ歩み寄る。

相互理解は一歩ずつ歩み寄るのが大事ですね。

なのに彼女は一歩ずつ後ろに下がっていきます。

「どうしたんですか？」

「え、いえ……普段、夜道で会ったら、わざと距離を離して歩いてくれるのに、どうして真っ直ぐ私の所に歩いてくるのかなって……」

ふむ、なるほど。

男子たる者、女性を脅えさせてはいけませんね。

ですから普段は女性が夜道で歩いていたら、なるべく遠くを歩くようにしています。

しかし、後ろから女性を追う形になった時、追いつくべきか、距離を取るべきか。
迷いますよね。

「I Love youを何て訳しますか？」

「え、愛してるとかですか？」

彼女は普段とは違う私の様子に怯え、今の問答で……そういう事かもしれない、と思ってくれたのか足を止めてくれます。

「違いますよ。『月が綺麗ですね』こう訳すのです」

夜は吸血鬼の時間。

信じてくれた彼女を裏切り、私は彼女に襲いかかります。

悲鳴を上げ、暴れる彼女の首筋に思いつきり噛み付くと……よくある吸血鬼の牙は私にはありませんからね。

それでも、私の口の中に広がる血の味。

言葉にすれば全てが陳腐になるだろう、これが手に入るのなら、私の全てと交換してもいい。

そう心から思える存在。

ありがとう、と彼女に感謝する。

こんな極上の美味を私にくれるなんて。

もはや我を忘れ、血管の隅々まで、意地汚く食べ終わった皿を舐める子供のように貪っているとある事に気付きます。

「防犯ベルが鳴っています……！」

それどころではありません。

周りに目を向ければ、三人の警官が何かを叫んでいます。それはそうでしょう。

法治国家日本の町中で女性の血を貪る男がいたら、当たり前のように警察が来ます。

血を吸い尽くした、もう動かない彼女に感謝をしながら口を離しました。

ああ、まだ三人から血を飲めるんですね……！

あの美味をまた味わえるという期待感と共に私は警官に襲いかかり

……

三人がかりでボコボコにされるのですた。

一話 吸血鬼になりました（後書き）

書いていて方向性が見えませんが、楽しんで頂けたら嬉しいです。
是非、評価や感想をお待ちしています。

二話 二人目いっちゃいました（前書き）

どこの層をターゲットにした話なんだろう、これ。

二話 二人目いつちやいました

「血いいいいい！血を寄越せええええ……！」

また精神崩壊ですか。忙しい人ですね……

！

「……………逮捕されてから、血は飲めないし、ご飯は食べられないし……………吸血鬼も餓死するんですね……………」

見ていて、ちよっぴり面白かったですよ。

「ちくしょう、何なのこのサディスト！？その調子で私を人の血を吸っても罪悪感を感じない吸血鬼にしたんですね！」

いえ、貴方の設定で変えられているのは身体だけです。
心は特に弄っていません。

「え、私ってナチュラルに吸血鬼みたいな趣味あつたんですか」

貴方が『吸血鬼になろう』の企画に選ばれたのは、その心の有り様が原因です。

他に問題が無いのに何故かこれだけ出来ない、という人間がいま
すね。

「ああ、友達にいつもお洒落で美人なのに掃除が出来ない子がいます」

子供を放置してもパチンコにのめり込む親や酒がやめられない人の
ように、貴方は執着した物に対して全ての常識を振り切って行きま

す。

ストッパーが存在していないのです。

「えー…今までそんな事、全く無かったんですけど」

高校生の頃、あるアニメにハマリ、やらかした事を忘れたのですか？

「厨二病で私は吸血鬼としての精神を獲得したんですか!？」

普通は授業中に「くっ、冷徹なる地獄の痛み（コキユートス+ペイン）の手の者か！皆を巻き込む訳には行かない……！こっちだ、来い！」と叫んで、教室を飛び出したりはしません。
あとラブレターもなかなか……

「やめてくださいよ！？餓死よりきつい！」

「君のイカロスの翼を溶かして、僕の大地と一緒に生きて欲しいのさ」ですか。

なかなか意味がわかりませんね。

欲しいのさ、の部分が更に痛々しいです。

「冷静に論評しやがって！いつそ殺せよ！私は丸腰だぞ！」

どうせまたすぐに死ぬから問題無いでしょう。

「それが問題だと思うのですが…吸血鬼になっても特に力が強くなる訳じゃないんですね。警察官とかに普通にボコボコにされました」

まだレベルが足りません。

今は【キレた中学生】並の力ですね。

「どこまで厨二病引つ張るんですか。土下座したら許してくれますか」

それはともかく一人の血を吸った事により、レベルがアップしました。

「おお、凄い」

吸血鬼としての格が上がり、風格が出ました。

貴方は街を歩いていても不良に絡まれにくくなります。やったね。

「……………他には」

RPGでもレベルが一つ上がったからと言って、複数の魔法を覚えられないでしょう。

そういう事です。

「何の役に立つんだ、それ…………しかも、絡まれにくくなるだけで絶対に絡まれない訳じゃないんですね…………」

武 くんクラスには絡まれます。むしろ、喜んで絡んできます。

「逆により強いのが来るじゃないですか！？大体、天使のくせにサブカルチャー詳しいですね！」

それほどでもあります。

さて、質問はありませんね。受付ません。

「いや、実はほら、あれですよ。質問が浮かばない訳じゃ！」

1 d a y 4 / 2 1 2 0 : 0 0

さて、きちんとこれからの事を考えなければいけません。
いきなり適当に襲いかかった所で警察に逮捕されてしまいますし、
場合によっては返り討ちです。

……吸血鬼なんですよね、私？

吸血鬼が普通の警察に逮捕される事を恐れなきゃいけないとは…世知辛い世の中です。

私が普通の人間なら、ばしばし逮捕してもらいたいです。

とりあえず血を吸わないという選択肢はあり得ません。

肉体的にも飲まねば理性を失いますし、精神的にも……またあの美酒を味わいたいです。

前回、餓死した分、更に精神的には飢えています。

こういう所が私のストッパーが無いという由縁なのでしょう？

まあどうでもいいですね。

まずは再び、あの女子大生を襲わせてもらいましょう。

考えてみれば、周りに人のいない夜道を歩く力の弱い女性というパターンは貴重なはずですよ。

上手くやれば、あっさり行けるはずですよ。

ああ…生の実感です。

私はこのために生きています。そう今なら言えますね。

普段の私がするように相手を怖がらせない距離を取って、通り過ぎ、背中を向けた相手をがぶり。

やり口は汚いですが、人間だって多人数での狩りや罠など汚い手を使います。

武士の嘘は武略ですね。武士ではないですが。

さて、飲み終わった死体からは離れましたし、いきなり即逮捕という事は無いはずですよ。

……もう一人くらい行っちゃいます？

飲み屋帰りでしょうかね。

「うーい、ひつく！」

お約束な台詞を言いながら千鳥足で歩くスーツ姿のおじさん。

見た目的には食欲はそそられませんが、ひよっとしたらアンコウのように中身は非常に美味しいかもしれません。

と、いう事でがぶり。

……加齢臭と酒の臭いが凄いです。

ぐえつと吐きそうになりながらも、血を……美味しく無いですね。

そう言えば、吸血鬼の好物は処女の血でしたか。

これは失敗しました。

手を付けた食べ物を残すなどというはしたない真似はせずに、きちんと飲み干しますが。

ん、スーツから写真が落ちましたね……恐らくお子さんなのか、高校生くらいの娘さんと奥さんが写っています。

財布に入っていた免許証で住所を確認して……さあ、行きましょう！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5073o/>

吸血鬼になろう！

2010年10月30日18時42分発行